赤磐市議会だより

令和８年３月議会　第85号



赤磐市議会ホームページ

（議会中継）　（会議録）　（市議会だより）

赤磐市議会　検索

ホームページでは議会の情報や、本会議、委員会の中継を配信しています。

CONTENTS

３月定例会のあらまし …… 2P
委員会のうごき …… 6P
14人の議員が一般質問 …… 11P

3月定例会のあらまし

議案審議

３月定例会を２月18日から３月16日まで27日間の会期で開催した。
議案32件中、人事案件８件を同意・適任、議案１件を承認、議案23件を可決。
請願１件を採択、１件を継続審査とした。
また、議員提出議案７件中、５件を可決、２件を否決した。

議第10号　赤磐市教育支援センター設置に関する条例

問　第４条に適応指導とあるが、何に適応させるという意味なのか。

答　子どもを一方的に環境へ合わせるという意味ではなく、子どもと環境の双方の調整を図りながら、安心して学び、社会とつながる状態を目指す概念で用いている。

議第11号　赤磐市子ども医療費給付に関する条例の一部を改正する条例

問　第６条の電子資格確認、その他厚生労働省等で定める方法とは、具体的には何を示すのか。

答　電子資格確認とはマイナンバーカードによるオンライン資格確認で、資格確認ができない場合には、マイナポータル画面、資格確認書の提示などの代替えの方法を想定している。

問　今回の改正の理由、目的は何なのか。

答　マイナンバーカードを子ども医療費受給者証として利用可能にすることで、確認が早く確実にでき利用者に非常にメリットがある。しかし、システムが未導入の医療機関もあるため、資格確認書を提示することで受診に支障が出ないように対応するためである。

議第14号　赤磐市環境基本条例検討委員会設置条例

問　委員は市長が委嘱すると条文にある。学識経験を有する者はどのような人を想定しているのか。

答　環境分野に専門的な知見や豊富な経験を持つ大学教授や環境行政の経験者を想定している。

問　委員で市長が適当と認める者はどのような人を想定しているのか。

答　赤磐市民という条件で広く市民から公募する予定である。

問　委員会の発足時期は。

答　委員の選任が６月ごろになる見込みで、委員会の発足は７月ごろを想定している。

問　条例の制定、施行はいつ頃を考えているのか。

答　年内を目途に委員会から提言をもらい、年度内の制定、令和９年度の施行と考えている。

人事案件

次のとおり同意・適任とした。

赤磐市固定資産評価審査委員会委員

青木　一馬（岡山市北区三野２丁目）
野田　崇（桜が丘東４丁目）
橋本　信洋（西窪田）
津田　典保（沢原）
是松　英明（是里）

【任期】令和８年５月19日～令和11年５月18日

人権擁護委員

岡本　勝己（沢原）

【任期】令和８年７月１日～令和11年６月30日

赤磐市教育委員会教育長

坪井　秀樹（穂崎）

【任期】令和８年４月26日～令和11年４月25日

赤磐市教育委員会委員

大﨑　陽二（桜が丘西５丁目）

【任期】令和８年５月20日～令和12年５月19日

討論

議第22号　令和8年度赤磐市一般会計予算

【反対討論】　（1人）

▽森林事業の中の、松くい虫の空中散布事業では、スミパインMCという薬剤が使われており、マイクロカプセルが含まれている。マイクロカプセルはポリウレタンが原料で、数年から数十年単位で海に蓄積し、マイクロプラスチック汚染の原因となり、生態系に悪影響を及ぼす。空中散布をしている地域の移住者が大変危機感を持っており、マイクロプラスチックの問題を改善するべき。よって、反対する。

請願

請願第7号　「小規模事業用電気工作物」の新設に伴う条例等の改正及びエネ庁の法令違反取締り運用開始に伴う赤磐市太陽光発電設備法令違反通報制度の設置要望について　【継続審査】

請願第1号　従来の健康保険証を使い続けられるように求める請願　【採択】

【要旨】

政府が健康保険証のマイナンバーカード一体化を推進しているが、従来の健康保険証の利用継続を希望する声が根強く存在するため、健康保険証を引き続き利用できるよう国に求める。

①国民が自身の事情に応じて従来型保険証とマイナ保険証のいずれを利用するか自由に選択できるようにする。

②マイナンバーカードを持たない人や、利用を希望しない人が不利益を被ることのないよう、現行制度の維持・並行運用を求める。

【反対討論】　（2人）

▽マイナ保険証の未申請者には資格確認書が送られるが、それと従来からの健康保険証は全く同じ機能。健康保険証を再発行すると、二重管理となりコストがかかる。マイナ保険証は、顔認証でなりすましの予防が可能。過去の病気・投薬履歴が参照できるため、聞く必要がなく間違いも起きず、入力ミスもなくなる。高額医療費制度を申請する必要がなくなる。人口減少対策として、DXを進めていかないといけない。よって、反対する。

▽資格確認書が健康保険証と同じで、請願者が求める状況にすでになっており、請願が採択されても何の利益もなく、裁判なら請求却下される内容。マイナ保険証は医療履歴を参照できるため、患者が覚えていなかったり、救急時に会話が困難でも、情報を提供できて、適切な処置が行えるので、高齢者のためになっている。個人情報流出が心配されているが、情報はカードの中には入っていない。保険証がなくても国民皆保険制度は有効。医療でDXを進めていくべき。よって、反対する。

【賛成討論】　（1人）

▽マイナンバーカードが、個人情報の漏えい、国家による個人情報の統制に繋がると危惧している。過去反対があり頓挫した国民総背番号制と実態は同じ。紛失・盗難・スキミング等のリスクがある。アメリカや韓国は一元的に全てを紐づけていない。資格確認書は健康保険証と同じではなく、申請の必要があり、国民皆保険制度の実態をなくす恐れがある。この請願には市民の思いが込められており、その思いに応えるべきだと思う。よって、賛成する。

発議

発議第1号　赤磐市議会委員会条例の一部改正について　【可決】

発議第2号　赤磐市議会会議規則の一部改正について　【可決】

発議第3号　赤磐市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について　【可決】

【要旨】

オンラインによる方法により委員会を開催することを可能とするために必要な規定を整備、議会運営に合わせた所要の改正及び、字句の整理を行うものである。

発議第４号　新拠点整備計画調査特別委員会の調査経費についての決議　【可決】

【要旨】
新拠点整備計画調査特別委員会の調査経費について、令和８年度においては１２０万円以内とする。

発議第５号　令和８年度一般会計予算のうち、松くい虫等防除事業の予算執行の留保を求める決議　【否決】

【要旨】
松くい虫防除の空中散布事業は、基準値以下のネオニコチノイド系農薬でも、胎児や小児の大脳への影響の懸念があり、情緒症状や多動性のリスク増加が報告されている。有効成分の80％以上は、土壌に残留するか、降雨によって河川や湖沼へ流出し、生物への影響が指摘されている。スミパインMCに含まれるマイクロプラスチックは、海洋生物が体内に取り込み、それらを摂取した人体から検出される事態を招いている。赤磐市が空中散布を続けることは許されない。住民への説明を進め、早急に事業の中止を求める。

【賛成討論】（２人）
▽土砂災害の防止が意義だが、市は、今まで散布をやめたところも広葉樹化して土砂災害が起きておらず、山が保全されていると答弁している。松は広葉樹と比べ、根が浅いため、広葉樹化していくほうが土砂災害の防止に効果的。地元住民の要望でもあり単純に反対はできないが、一度立ち止まって、地元住民と協議をした上で、再検討をしてもらいたい。よって、賛成する。
▽環境破壊や地球温暖化は不都合な真実であるが、認めていかなくてはならず、市の財政が厳しい中、２８００万円という予算がかかっているので、一度様子を見たい。よって、賛成する。

【反対討論】（１人）
▽予算の執行を留保する決議と表題があるにもかかわらず、説明には「早急に事業の中止を求める」という内容で、整合性がない。よって、反対する。

発議第６号　従来の健康保険証の継続利用を国に求める意見書　【否決】

発議第７号　後期高齢者医療保険料の急激な上昇抑制に向けた後期高齢者医療財政安定化基金の活用を求める意見書　【可決】

【要旨】
令和８年度、令和９年度の後期高齢者医療保険料の大幅な上昇に対して、岡山県の後期高齢者医療財政安定化基金を活用し、保険料上昇の抑制をするよう要望する。

【反対討論】（１人）
▽基金10億円を取り崩しても効果は県民１人当たり月１００円で、費用対効果がない。基金は何か困ったときに使うもので、若者の将来のために残すべき。よって、反対する。

６月議会定例会のお知らせ

日	月	火	水	木	金	土
6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13
				本会議（議案上程）	休会（予備日）	
6/14	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20
	本会議（一般質問）	**本会議（一般質問）**	**本会議（一般質問）**	休会（予備日）	**本会議（質疑・委員会付託）**	
6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27
	産業建設常任委員会	**総務常任委員会**	**厚生文教常任委員会**	**予算常任委員会**	休会（予備日）	
6/28	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4
		本会議（委員長報告・質疑・討論・採決）				

※この日程は予定です。正式日程は、６月４日開催の議会運営委員会で決定します。

請願の提出期限について
請願を定例会に上程するための提出期限は、議会招集日前に開催する議会運営委員会の３日前でしたが「５日前」に変更となりました。６月定例会は５月28日（予定）が提出期限です。詳しくはホームページをご覧ください。

令和８年３月第１回赤磐市議会定例会審議結果

議案番号	案　　件	議決結果	横山裕太	行本大輔	田村　勝	中田浩二	杉野千秋	安藤利博	永徳省二	佐藤　武	佐々木雄司	光成良充	保田　守	大口浩志	治徳義明	原田素代	金谷文則	松田　勲	実盛祥五	佐藤武文
議第２２号	令和８年度赤磐市一般会計予算	可決	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	●	○	○	○	—
請願第７号	「小規模事業用電気工作物」の新設に伴う条例等の改正及びエネ庁の法令違反取締り運用開始に伴う赤磐市太陽光発電設備法令違反通報制度の設置要望について	継続審査	○	○	○	●	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	—
請願第１号	従来の健康保険証を使い続けられるように求める請願	採択	○	○	○	●	○	●	●	●	○	○	○	●	●	○	●	●	○	—
発議第４号	新拠点整備計画調査特別委員会の調査経費についての決議	可決	○	○	○	○	○	○	●	●	●	○	○	●	○	○	○	○	○	—
発議第５号	令和８年度一般会計予算のうち、松くい虫等防除事業の予算執行の留保を求める決議	否決	○	●	●	●	○	○	●	●	●	●	○	●	●	○	●	●	●	—
発議第６号	従来の健康保険証の継続利用を国に求める意見書	否決	○	○	○	●	○	●	●	●	○	○	○	●	●	○	●	●	●	—
発議第７号	後期高齢者医療保険料の急激な上昇抑制に向けた後期高齢者医療財政安定化基金の活用を求める意見書	可決	●	●	○	●	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—

○＝賛成　●＝不賛成

※佐藤武文議長は地方自治法第116条第２項の規定により議決に加わることができません。

※下記に記載する議案については、全会一致で可決しています。

議案番号	案　　件	議決結果
同意第１号	赤磐市固定資産評価審査委員会委員の選任に関し同意を求めることについて	同意
同意第２号	赤磐市固定資産評価審査委員会委員の選任に関し同意を求めることについて	同意
同意第３号	赤磐市固定資産評価審査委員会委員の選任に関し同意を求めることについて	同意
同意第４号	赤磐市固定資産評価審査委員会委員の選任に関し同意を求めることについて	同意
同意第５号	赤磐市固定資産評価審査委員会委員の選任に関し同意を求めることについて	同意
同意第６号	赤磐市教育委員会教育長の任命に関し同意を求めることについて	同意
同意第７号	赤磐市教育委員会委員の任命に関し同意を求めることについて	同意
諮問第１号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	適任
承認第１号	専決処分の承認を求めることについて 令和７年度赤磐市一般会計補正予算（第６号）	承認
議第１号	赤磐市過疎地域持続的発展計画について	可決
議第２号	財産の取得について	可決
議第３号	調停の成立について	可決
議第４号	赤磐市バス運行に関する条例の一部を改正する条例	可決
議第５号	赤磐市の議会の議員及び長の選挙における選挙運動用ビラの作成の公営に関する条例の一部を改正する条例	可決
議第６号	赤磐市の議会の議員及び長の選挙における選挙運動用ポスターの作成の公営に関する条例の一部を改正する条例	可決
議第７号	赤磐市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例	可決
議第８号	赤磐市手数料条例の一部を改正する条例	可決
議第９号	赤磐市みんなの学び舎条例	可決
議第１０号	赤磐市教育支援センター設置に関する条例	可決
議第１１号	赤磐市子ども医療費給付に関する条例の一部を改正する条例	可決
議第１２号	赤磐市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例	可決

議案番号	案　　件	議決結果
議第１３号	赤磐市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例の一部を改正する条例	可決
議第１４号	赤磐市環境基本条例検討委員会設置条例	可決
議第１５号	赤磐市火入れに関する条例の一部を改正する条例	可決
議第１６号	赤磐市火災予防条例の一部を改正する条例	可決
議第１７号	令和７年度赤磐市一般会計補正予算（第７号）	可決
議第１８号	令和７年度赤磐市国民健康保険特別会計補正予算（第４号）	可決
議第１９号	令和７年度赤磐市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）	可決
議第２０号	令和７年度赤磐市介護保険特別会計補正予算（第３号）	可決
議第２１号	令和７年度赤磐市財産区特別会計補正予算（第２号）	可決
議第２３号	令和８年度赤磐市国民健康保険特別会計予算	可決
議第２４号	令和８年度赤磐市後期高齢者医療特別会計予算	可決
議第２５号	令和８年度赤磐市介護保険特別会計予算	可決
議第２６号	令和８年度赤磐市訪問看護ステーション事業特別会計予算	可決
議第２７号	令和８年度赤磐市宅地等開発事業特別会計予算	可決
議第２８号	令和８年度赤磐市財産区特別会計予算	可決
議第２９号	令和８年度赤磐市水道事業会計予算	可決
議第３０号	令和８年度赤磐市下水道事業会計予算	可決
議第３１号	令和８年度赤磐市一般会計補正予算（第１号）	可決
議第３２号	令和８年度赤磐市水道事業会計補正予算（第１号）	可決
発議第１号	赤磐市議会委員会条例の一部改正について	可決
発議第２号	赤磐市議会会議規則の一部改正について	可決
発議第３号	赤磐市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について	可決

厚生文教常任委員会

3月3日に厚生文教常任委員会を行った。議案6件、請願2件について審査した。

赤磐市みんなの学び舎条例

問 地域交流をしていく説明があったが、交流が厳しい子供への配慮は。

答 配慮しながら進めていきたい。

問 施設の一本化ではなく、サテライトを残すほうが大事では。

答 車両を購入してピストン輸送など状況をみながら考えていく。

赤磐市教育支援センター設置に関する条例

問 条例に入っている適応という言葉は誤解を生みやすいので、別の形に変えることは。

答 子供を一方的に環境に合わせるのではなく、相互調整を図り安心して社会に迎えられる状態を目指す考えである。

赤磐市子ども医療費給付に関する条例の一部を改正する条例

問 国の法律にのっとって、マイナンバーカードへ進めようとしているが、住民の理解など含めて、どのような思いで条例を進めようとしているのか。

答 国のオンライン資格確認の普及に対応する改正であり、引き続き啓発していきたい。

赤磐市環境基本条例検討委員会設置条例

問 他の自治体のほとんどが制定しているのに、赤磐市はなぜ今になったのか。

答 統一的に実施するため制定に動き出した。

問 意見をもっている人を公募して、議論を深める方法が取れるのではないか。

答 検討委員会の委員を通じて、市民の意見を取り入れられる工夫をしたい。



赤磐市特別支援教育推進センター（なないろ）

請願の審査

従来の健康保険証を使い続けられるように求める請願

主な意見

・マイナ保険証を持っていない人には同一機能の資格確認書が送付されるので、不採択とすべき。

・国民が自身の事情に応じて利用の選択を求めているので、採択すべき。

・医療費が増大する中、両方は二重になり、財政が圧迫されるので、不採択とすべき。

・マイナンバーカードの取得が困難、小さなカードの持ち歩きが不安な人などは、従来の保険証を残してもらいたいので、採択すべき。

・デジタル化は進めていかなければならないが、健康保険証も残して選択できるようにしてほしいことにも納得できるので、採択すべき。

産業建設常任委員会

3月4日に産業建設常任委員会を行った。議案3件について審査した。

調停の成立について

申立人が市所有地を時効により、所有権を取得したことの確認を求める調停である。

問 時効の完成により、固定資産税は遡及して課税しないということでよいか。

答 そのとおりである。

赤磐市火入れに関する条例の一部を改正する条例について

森林又は森林の周囲1キロメートルの範囲内にある土地における火入れに関する条例である。

問 改正の主な内容は。

答 これまでは強風注意報や乾燥注意報が発令された際に火入れを中止・消火する規定だったが、国の通知を受け、新たに林野火災注意報及び警報が発令された際にも火入れを中止するよう、規定を追加するものである。



田んぼの火入れ

総務常任委員会

3月5日に総務常任委員会を行った。議案7件について審査した。

赤磐市バス運行に関する条例の一部を改正する条例

問 電車・バス遅延時の対応はどうか。

答 遅延の連絡があれば、発車時刻を遅らせるなど対応している。

問 利用者への周知方法は。

答 バス停掲示、広報紙、ホームページ、LINE等で周知し、関係中学校・高校にも案内する。

赤磐市の議会の議員及び長の選挙における選挙運動用ビラの作成の公営に関する条例の一部を改正する条例

問 ビラの枚数と単価はどうか。

答 市長選は1万6千枚、市議選は4千枚で、単価は同一である。

赤磐市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例

問 民間駐車場の利用状況は。

答 本庁・支所職員は市の駐車場を利用しており、出向職員などが民間駐車場を利用している。

問 上限額を超えた場合は。

答 超過分は自己負担となる。

赤磐市火災予防条例の一部を改正する条例

問 林野火災注意報の効力は。

答 注意報は努力義務、警報は違反時に罰則が科せられる。

問 抑止力は十分か。

答 県内で協議の上、同様の改正としている。



林野火災警報・注意報

予算常任委員会

3月6日、3月9日、3月10日、3月16日の4日間、予算常任委員会を行った。議案16件について審査した。

令和7年度補正予算（一般会計・特別会計他）3億5960万円の減額補正を可決

主な内容（歳出）

一般会計（4億8884万円減額）（第7号）

- ふるさと応援基金積立金事業（1億2007万円増額）
- 生活保護扶助事業（5992万円増額）
- 保育園運営事業（2億1008万円減額）
- 農業経営・生産対策事業（3000万円増額）
- その他体育施設管理事業（1億6795万円減額）等

国民健康保険特別会計（1903万円減額）（第4号）
後期高齢者医療特別会計（779万円増額）（第2号）
介護保険特別会計（1億2968万円増額）（第3号）
財産区特別会計（1080万円増額）（第2号）

令和7年度補正予算

防災行政無線管理事業を550万円減額

問 防災行政無線管理事業が減額となった理由は。

答 防災無線設備更新に係る入札の結果、執行残が生じたことによる減額である。

生活交通対策事業を533万円増額

問 生活交通対策事業におけるハレカハーフ事業が増額となった理由は。

答 利用者数の増加に伴い、チャージ額及び利用額が増加したためである。利用者は345人となっており、今後も増加が見込まれるものである。

移住・定住促進事業を450万円減額
結婚支援事業を210万円減額

問 移住・定住促進事業の空き家改修補助金及び結婚支援事業補助金が減額となった理由は。

答 実績見込みによる減額であり、制度要件や対象条件により申請件数が当初見込みを下回ったためである。今後は制度の見直しや周知の強化を図る考えである。



結婚新生活支援事業補助金

市民バス運行事業を341万円減額

問 市民バス運行事業が減額となった理由は。

答 運行委託に係る入札の結果、執行残が生じたことによるものである。

生活保護扶助費を5992万円増額

問 高額な返還金が発生した理由は。

答 医療扶助の増大分で12月に補正予算を組んだが、医療費の支出が増えず、執行残が増えたため、返還金が発生した。

学校施設改修事業を6480万円減額

問 山陽ふれあい公園体育館屋内プール長寿命化計画の内容は。

答 空調と天井の修繕。天井は令和7年度での修繕を予定していたが、老朽化が激しいため、令和7年度で計画を策定し、次年度以降で修繕実施の方針に変更となったため、減額とした。

企業誘致関連事業に2億1956万円増額

問 前年度に比べてかなりの増額となっているが、企業が増えた以外で新たな企業誘致に力を入れる意味での予算なのか。

答 企業誘致奨励金、企業立地促進奨励金のみでの増額をした。

道路維持管理事業に3億6504万円増額

問 維持管理事業として、全てを修繕するということか。

答 令和6年度に路面性状調査を実施。今後5カ年計画で、大規模な舗装の修繕工事を実施予定。その1年目としての増額である。

令和8年度当初予算

財政調整基金繰入金に21億5535万円計上

問 財政調整基金を21億5535万円余り取り崩した理由は。

答 市民要望を踏まえた事業を実施するためである。今後は行財政改革や歳出の見直し、歳入の確保により健全な財政運営に努める考えである。

問 財政調整基金の残高減少に対する今後の対応はどう考えているか。

答 歳出の見直しや事業の精査を行うとともに、国県補助金の活用などにより歳入確保に努め、複数年を見据えた財政運営を行う考えである。

市債に11億3720万円計上

問 市債が増加しているが、その要因は。

答 合併特例債の活用等による一時的な増加である。今後は借入れの減少により残高は減少傾向となる見込みである。

社会福祉協議会補助金に1億1967万円計上

問 過去問題になっていた労働条件の改善状況と、前年より増額した理由は。

答 労務環境の改善に努め、現状落ち着いてきている印象。

前年より約2600万円増額の理由は、人件費増で約900万円、老人福祉センターの修繕費で約400万円、介護事業は赤字補填で、吉井のホームヘルプ等で1300万円である。

福祉タクシー券事業に974万円計上

問 前年度より増額する理由は。

答 従来の障害者手帳等の所持者に加え、新たに要介護の1から5の人も追加対象とした。また、月2枚で年間24枚が上限のところ、月4枚で年間48枚を上限に変更した。

感染症予防事業に1億4085万円計上

問 新型コロナウイルス予防接種健康被害給付費負担金に関わる認定者の人数と治療の状況は。

答 認定者は累計4人。3人は既に治療が終了。残り1人の医療費と医療手当で53万円と、認定待ち3人が認定された場合を想定し30万円を計上した。

令和８年度当初予算400億6,130万円を可決

会計名	令和８年度予算(A)	令和７年度予算(B)	増減(A)-(B)
一般会計	241億1,587万5千円	222億8,499万4千円	18億3,088万1千円
特別会計	109億4,531万7千円	110億2,117万4千円	▲ 7,585万7千円
国民健康保険	53億1,192万6千円	55億5,969万 円	▲2億4,776万4千円
後期高齢者医療	10億 187万5千円	8億9,317万7千円	1億 869万8千円
介護保険	45億8,114万1千円	44億6,510万1千円	1億1,604万 円
訪問看護ステーション事業	298万8千円	5,448万8千円	▲ 5,150万 円
宅地等開発事業	4,134万7千円	4,284万7千円	▲ 150万 円
財産区	604万 円	587万1千円	16万9千円
公営企業会計	50億 10万8千円	48億5,525万 円	1億4,485万8千円
水道事業	17億6,785万3千円	15億5,248万7千円	2億1,536万6千円
下水道事業	32億3,225万5千円	33億 276万3千円	▲ 7,050万8千円
合計	400億6,130万 円	381億6,141万8千円	18億9,988万2千円

問 ４月からＲＳウイルスワクチンが定期接種となるが、ワクチン接種による重篤な副反応のリスクが報告されていることを、市は説明するのか。また子宮頸がんワクチンについて、市のホームページでデメリットの記載がないが記載すべきでは。

答 すべての予防接種について、メリット・デメリットを市民に周知する。

電算管理運営事業に4億3193万円計上

問 タブレット購入の台数は。また、デジタル機器を使用している子どもの学力が低下しているというデータもある。この事業に予算を使うべきなのか。

答 児童用で４１１７台を購入予定。国のＧＩＧＡスクール構想の事業で、令和２年からスタートし、今回第２期の更新の時期を迎えているため、更新費用を計上している。

その他体育施設管理費に9997万円計上

問 熊山運動公園の破裂した散水タンクの修繕は予算に含まれているのか。修繕に時間がかかるなら、出入りできないように注意喚起やバリケート設置をすべきでは。

答 令和７年度補正で設計費用を計上している。設計完了後、令和８年度の補正で計上する予定で、当初予算には含まれていない。

日本型直接支払事業費に8943万円計上

問 ２１９６万円減額の説明を。

答 主に中山間の交付金で、44協定から40協定に減り、交付金が減額となった。

団体営事業費に4084万円計上

問 ハザードマップ作成が必要な特定ため池は何カ所あって、令和８年度は何カ所計画しているのか。

答 赤磐市内で３３２池、令和７年度までに２１７池作成している。令和12年度までの期間で残りの池を作成する。

松くい虫等防除事業に2860万円計上

問 前年度より３３０万円ほど増額している理由は。

答 燃料高騰に係る委託料の増である。

問 県内で防除をしている自治体は。

答 空中散布を実施しているのは、赤磐市と井原市のみである。

企業誘致関係事業に2億7192万円計上

問 市で造成した土地に入った企業は、企業誘致奨励金と企業立地促進奨励金の２つを受けることができるのか。

答 市が造成した土地に限らず、受けることは可能である。

都市公園管理事業に2572万円計上

問 事業内容は前年度と変わっていないが、事業費が上がっている。委託先に変化があったのか。どのようなところを修繕するのか。

答 シルバー人材センターに委託しているが、対応できない部分を建設事業者に発注する。修繕は桜が丘西の第１近隣公園のバックネットがかなり老朽化しており修繕を計上している。

国民健康保険特別会計

熊山診療施設の外来収入に1億5610万円計上

問 前年度と比べて1279万円の減額だが、下がる傾向なのか。今後の対策は。また、土曜日診療について知らない人が多いが、宣伝はしているのか。

答 診療報酬は以前から減少傾向。原因は患者数の減少。地域の人が利用しやすい施設にしていきたい。

また、施設が10年以上経過して、施設の設備の更新がある。国や県の補助金などを活用し、市からの繰入金を縮小していけるように努める。土曜日診療の宣伝は行っていないが、広報など活用しアピールしていく。

後期高齢者医療特別会計

後期高齢者医療保険料に7億7740万円計上

問 普通徴収分が2億3114万円と高額だが、例年どおりなのか。普通徴収分が多いと滞納が気になるが、問題ないのか。

答 見込みになるが、割合としては、例年程度と認識している。口座引き落としなど、確実に納付してもらえるよう案内している。

訪問看護ステーション事業特別会計

繰入金に298万円計上

問 必要経費分を繰入しているとのことだが、事業休止中で事業収入がゼロの状況で、この繰入はいつまで必要なのか。

答 体制が整い次第再開を予定しているが、再開後も直ちに収入が増えるわけではないため、繰入金は必要である。

問 看護師が確保できなくなったから休止とのことだが、休止は赤磐市の訪問看護にとって痛手。市としての組織対応には問題はなかったのか。

答 訪問看護ステーションについて、組織としてきちんと対応している。当時利用していた30人ほどの患者については、民間の訪問看護ステーションに引き受けてもらい、体制は整っている状況。今後、適正な組織運営ができる見込みが立ち次第、担当常任委員会に報告する。

令和8年度補正予算（一般会計・事業会計）2億8307万円の増額補正を可決

主な内容（歳出）

一般会計（2億8109万円増額）（第1号）

・水道事業会計繰出事業（2億7998万円増額）　・上下水道未給水世帯支援給付事業（111万円増額）

水道事業会計（198万円増額）（第1号）

令和8年度補正予算

水道事業会計繰出事業に2億7998万円増額

問 広域水道企業団の単価が値上げになる可能性があるが、余分をある程度みて金額設定をしているのか。

答 値上げの可能性は現状見込んでいない。

問 一般家庭は全て小口径と思えば良いのか。それ以外の大口径、いわゆる法人に対しては一切の免除はないのか。

答 30ミリメートル以下が対象で、一般家庭は全て網羅されている。中小企業を対象ということになっているが、全てを把握することが難しいので、30ミリメートル以下で計上している。

上水道未給水世帯支援給付事業に111万円計上

問 水道がつながっていない世帯は何軒くらいか。

答 125軒を想定している。



一般家庭用水道メーター



一般質問

市の考えを問う

14人の議員が登壇し市の考えをただしました。
一般質問通告事項は次のとおりです。

一般質問のページは質問した議員本人の原稿に基づいています。

質問議員	質問事項
安藤　利博 12ページ	・文化施設整備について ・歴史遺産の整備について ・組織、人員配置について
永徳　省二 12ページ	・全国体力テストについて ・リスキリング推進について ・ヤングケアラーについて
金谷　文則 13ページ	・赤磐市政をもっと知ってもらい、発展させていくためにはについて ・赤磐市の教育の考え方について ・赤坂地域の小学校と校区、地域との今後について
杉野　千秋 13ページ	・馬屋地区の農地整備について ・小中学校において照度の不足が心配 ・高校生通学費補助について
松田　勲 14ページ	・新拠点整備に合わせた周辺道路の整備について ・桜が丘地内の整備について
横山　裕太 14ページ	・質の高い給食について ・ごみの屋外焼却について ・林業について ・介護保険の利用について
田村　勝 15ページ	・赤磐市医療の充実と通院困難者の支援について ・福祉タクシー券の充実について ・市の財政について（企業誘致及び工業団地の計画等） ・ＪＲ熊山駅の利用促進と周辺施設整備について

質問議員	質問事項
中田　浩二 15ページ	・地域振興への基本姿勢について ・地域交通、移動手段の確保について ・農地と地域資源の活用について ・生活道路の安全確保と維持管理について ・機能別消防団員制度の導入と今後の展望について
治徳　義明 16ページ	・成年後見制度の現状・課題・今後の取り組みについて ・こども誰でも通園制度について ・サッカー場建設について ・セアカゴケグモ対策について ・農業機械のリース・レンタル等の仕組みづくりについて
大口　浩志 16ページ	・医療について ・美作・岡山道路について ・生活支援について ・通学支援について ・合併浄化槽補助成度について
佐藤　武 17ページ	・企業誘致について ・公共交通機関について
原田　素代 17ページ	・環境基本条例の制定について ・ソーラー設置の現状 ・生理用品の設置について
佐々木雄司 18ページ	・市役所内での共産党機関紙の購入について ・議員による職員へのハラスメント事例について尋ねる ・北朝鮮の核ミサイル開発や拉致問題について ・令和８年度予算策定について ・企業誘致と税収増について
行本　大輔 18ページ	・市政の１年を振り返り ・ガバメントハンターについて ・ゼロカーボンシティに向けての取り組みは ・物価高騰に直面する放課後児童クラブへの支援について

表紙の一言

令和８年３月１日、あかいわ桃磐祭（モモロックフェス）が開催されました。音楽やダンス、体験、グルメなど、赤磐市の魅力がぎゅっと詰まった市民参加型の新しいイベントです。来場者によるバルーンリリースで赤磐市の空がカラフルに彩られました。晴天に恵まれ約７千人の来場者があり、会場は一日を通して大きなにぎわいに包まれました。



安藤利博議員

赤磐市文化振興ビジョンに市長の思いは

個人質問の映像を録画放映でご覧になれます。

問 赤磐市文化振興ビジョン改定版には、市民ホールや美術館に関する記載が全くない。市民ホールの建設場所として、桜が丘中央、新拠点の公共ゾーンや赤坂地区の振興にもつながる消防署の先の赤坂地区はどうか。

答 新たな施設整備について、市民会館・美術館・郷土資料館などはどのような施設がよいか、場所など十分に議論する必要がある。施設整備について研究、検討したい。

問 赤磐市には美術館の企画運営に関して日本でも最高レベルの人や、西洋画の大学教授もいる。場所さえあれば美術館を運営できる人材は揃っている。軽部小学校、山陽西小学校の空き教室や赤坂支所を改装して美術館にできないか。

答 美術館は市内外、県外からも多くの人が訪れる文化施設である。今ははっきりしたものはないが、行政計画を単なる活字としてではなく、進行管理をして形が見えるように任期中で頑張って進めたい。

歴史遺産の整備

問 歴史公園としての整備について教育委員会は整備が必要としながら具体的な施策として進めるには至っていないとしている。観光振興、交流人口増加の観点から産業振興部から助け舟は出せないか。

答 観光振興の面からも貴重な財産である。地域おこし協力隊も有効に活用して観光振興に努めたい。

救急体制の強化は

問 救急車の3隊以上の重複出動件数は95件、非番招集人数が281人もあった。現在の救急体制で大丈夫か。

答 市民の安全安心を第一に考えて進めていきたい。



歴史公園として整備が必要な史跡周辺



永徳省二議員

ヤングケアラーについて

個人質問の映像を録画放映でご覧になれます。

問 ヤングケアラーとは、本来大人が担う家事や家庭の世話を日常的に行っている子供や若者たちのこと。そのため学業や友人との時間が制限される。小中学生の総数とヤングケアラーの人数は。

答 小中学生の総数は4078人。要保護児童対策協議会と連携して把握しているヤングケアラーは5人。

問 中学生は1195人いる。国は中学生の5・7%はヤングケアラーであると言っている。計算すると中学生は68人だが、答弁は4人。簡単に言うと、5%しか見つけられていない。小学生は2883人いて、国のデータでは6・5%。計算すると187人。答弁が1人、ふざけているとしか思えない。こんな数字で満足しているのか。このとんでもない数字を答弁したことに関して、どういう感想を持っているのか。

答 指摘のとおり、人数はかなり少ないと認識している。見落としや怠慢があるのではないか、これを学校現場に返して、もっといるはずだという認識で子供と関わる必要がある。

問 今までの質問、答弁を総合して、ヤングケアラー条例をつくるべきと思うが。

答 十分必要性を認識している。前に進めるべきと思っている。

全国体力テスト

問 スポーツ庁は、2025年度の全国体力テスト結果を公表した。赤磐市の子供たちの状況はどうか。

答 中学校段階で平均得点がやや下降傾向にあり県との平均の差も拡大している状況から、成長期における運動習慣の維持や学校生活全体の在り方など複合的な要因を丁寧に捉えていく必要がある。

（下記表参照）

	生徒数	国の想定数	市の把握数
小学校	2,883	187	1
中学校	1,195	68	4
合　計	4,078	255	5

こんなはずではない　ヤングケアラー数の表



金谷文則議員

市政の発信力は弱いのではないか

個人質問の映像を録画放映でご覧になれます。

問 赤磐市の市政の発信力は弱いのではないかという声が聞かれる。市長は何をしているのかわからない。議会は何をしているのかわからないという言葉を耳にする。決して何もしていないわけではないが、市民の安全安心、不安という感覚の中へ、市政の発信が十分に行われていないのではないか。

答 広報紙、ホームページ、ＬＩＮＥを中心に情報発信を行っている。広報紙は、縦書きから横書きに変更、図表を多用した構成などさらに改善していく。ホームページは来年度予算にてＡＩ検索機能の導入を検討。ＬＩＮＥについては適切なタイミングで発信できるよう運用していく。

問 市長が直接動画で市民に語り掛けるコーナーを設け、発信したらどうか。

答 有効だと思うので、職員のみんなと取り組んでいきたい。

問 赤坂地域の３つのエリアである小学校が一つになり、４月から赤坂小学校として新しくなる。各小学校は地域と一体化して１５０年も続いてきた。そこにはたくさんの歴史があり、１５０年前からの残していくべき実績や思い出がある。しっかり保存して、将来の人たちに伝えるべきであろうと思う。どのように歴史を保存し伝承していくのか。

答 小学校が歩んだ１５０年は単なる教育の歴史ではなく地域の歴史である。各小学校の歴史の保存や伝承は、新たに開校する赤坂小学校を通じて大切に引き継いでいく。貴重な歴史的品々は、赤坂小学校に設けるメモリアルスペースや山陽郷土資料館で保存し、各小学校の歴史や文化については、授業の中の生活科や総合学習の時間を通し学んでいく。



３小学校合同閉校式に配られたクリアファイル



杉野千秋議員

馬屋地区の農地整備について

個人質問の映像を録画放映でご覧になれます。

問 令和３年度から、ほ場整備について馬屋地区と相談等を繰り返し、農地中間管理機構に決まったが、事業は進んでいるのか。

答 馬屋地区の整備条件に合う事業を検討し、令和８年度に、農地中間管理機構関連農地整備事業の事業化に向けて進めている。

問 事業が進まなかった理由の一つは、遺跡の発掘調査だが、一刻も早く進めるべきではないか。

答 埋蔵文化財の確認調査と事業化の手続きは、同時並行で早く進めていきたい。

小中学校の照明器具の照度不足が心配

問 桜が丘中学校、山陽北小学校と比べ、高陽中学校、山陽小学校は照度が半分以下である。子供たちの目や体調管理のためには、早急に対応が必要では。

答 子供たちが、安全安心の下で学ぶことが大切である。早急なＬＥＤ化を進めていく。

問 ＬＥＤがある程度の明るさを超えると、ブルーライトによる眼精疲労、視力低下等の影響が心配では。

答 学校環境衛生基準で照度の下限値は３００ルクスと決められているが、しっかり検討していきたい。

高校生の通学費補助について

問 今までは小学校からの距離だったが、中学校からの距離で考えるようになり、良くなったと思うが、自転車で通学している生徒には出ないのか。

答 高校への交通手段について、公共交通機関・親による送迎・自転車など、いろいろな手段で通学し、移動による費用がかかっているが、通学実態がある全ての高校生に補助するものである。



馬屋地区の農地



松田　勲議員

新拠点周辺の道路整備はどうか

個人質問の映像を録画放映でご覧になれます。

問 新拠点に計画されている道の駅にはバスターミナルがあり、交通のハブ機能も持つため期待されているが、朝夕の渋滞や事故等で心配される人も多い。

岩田・長尾地区へ結ぶ新路線、前にも提案した桜が丘から新下市橋の間で瀬戸方面に抜けるバイパス道路、また、ゆめマート付近の交差点から赤坂へ抜ける県道の拡幅整備等はどのような状況か。

答 新下市橋交差点については、特に南からの車線、桜が丘からの車線の改良を、昨年県へ要望書を提出した。交通量調査の結果も踏まえながら、第1候補として、交差点改良。次にバイパスを考える形で検討を進めている。

岩田長尾線は、令和8年度中には県道の南側も含め開通に向け進めている。赤坂方面は、正崎橋の架け替えを県へ要望している。

桜が丘中央ショッピング周辺整備の状況は

問 将来的にも大切な拠点の一つである。市長として、市民のため、まちづくりのため、地権者へどのように要望し協力を求めているのか。

答 桜が丘中央のショッピングセンターについては、所有者に対し、市としても積極的に協力していくことを伝え、相互の連携による計画の検討と整備を強く要望している。

現時点では、具体的な方針は示されていないが、所有者からは市と連携協力し、コミュニティの維持強化を図り、発展し続ける地域づくりを目指したいという前向きな意向を聞いている。

今後も、良好な関係を維持し、所有者の意向を尊重しつつも、引き続き協議を重ね市政への協力を求めていく。



朝夕混雑する新下市橋交差点



横山裕太議員

質の高い給食について

個人質問の映像を録画放映でご覧になれます。

問 無添加の日をつくることはできないか。

答 可能な限り天然の材料からだしをとっている。新年度には無添加調味料を意識した献立日を増やすことを検討中。

問 米の精米を金芽米加工にできないか。

答 費用、赤磐米が精米できるか、給食センターの炊飯器で対応できるかを検証したい。

ごみの屋外焼却

問 「近隣住民が家庭ごみを屋外焼却し、煙が自宅の換気扇から入り、呼吸器疾患が発症した」との相談があった。市の防止策は。

答 市民の健康と生活環境の保全が最優先。行為者に法規定を説明し、焼却中止を指示している。未然防止についても、他市の事例も参考にし、さらに周知に努める。

林業について

問 森林は貯水機能がある。農業や防災のために、林業の振興が必要。市の取組状況は。

答 森林環境譲与税を活用し、人工林を対象とした森林経営管理事業を進行中。対象の人工林は全体の約16％。

問 残り84％に対しての取り組みは。財源が無いなら過疎債を使えないか。

答 具体的な施策は行っていない。過疎債など財源を模索し、適正な管理推進を検討したい。

介護保険の利用状況

問 吉井地域等は特に、介護の必要がある人からの申請がなく、サービスを受けられていないケースがあると聞く。申請促進の活動は。

答 地域包括支援センター職員が、本人の自宅を訪問し、介護保険の申請勧奨をしている。吉井や赤坂の認定率は、山陽や熊山より高い。



金芽米加工（精米方法）について



田村　勝議員

JR熊山駅周辺の環境整備を問う

個人質問の映像を録画放映でご覧になれます。

問　JR熊山駅の利用促進には、利用しやすい環境づくりが重要と考える。例えば、スタジアム誘致の際に自治体が手を挙げるように、地域として積極的に取り組む姿勢も必要ではないか。駐輪場の屋根設置や防犯カメラの整備、休憩所の利便性向上など、駅周辺整備について市の考えは。

答　デマンド型バスや定時定路線型バスを熊山駅に乗り入れ、鉄道との接続性を高めて利用促進を図る。また、駅整備時に駐輪スペースを確保し、自転車ラックを設置して対応している。

問　赤磐市の医療体制について、佐伯北診療所の医師派遣の状況と、熊山診療所における通院困難者への支援については。

答　佐伯北診療所は岡山大学などから医師派遣により医療体制を確保しており、熊山診療所では各診療科の診察を行うとともに、市民バスや福祉タクシーなどを活用し、通院支援の利便性向上に努めている。

問　福祉タクシー券の充実と、免許証を持っていない人（返納者を含む）の外出支援について、市の考えは。

答　高齢者など移動に不安のある人の外出機会確保のため、福祉タクシー券の対象者や支援枚数の見直しを行い、予算計上した。通院や買い物など日常の外出支援につなげ、今後も状況を見ながら安心して外出できる仕組みづくりを進める。

問　市の財政や企業誘致、工業団地の計画など、赤磐市の現状と第3次総合計画の考えは。

答　市内産業団地はほぼ空きがない状態、企業誘致は地域経済の活性化や雇用創出、税収増加につながる。立地適地の調査や民有地の状況を把握し、新たな企業誘致を進める。



熊山駅前駐輪場の現状



中田浩二議員

地域の活性化と安全な暮らしの実現に向けて

個人質問の映像を録画放映でご覧になれます。

市長の地域振興への基本姿勢

問　美作岡山道路の整備に伴う企業誘致の進捗や、吉井地域を通過点にさせないための交流拠点整備の計画は。

答　吉井ICの活用により大松精機株式会社が立地し、第2工場建設を検討している。交流拠点については、令和8年度予算でキャンプ場や天文台等の既存施設を改修し、観光振興を推進する。

地域交通・移動手段の確保

問　高齢者の通院、買い物支援の観点から、エリア外への移動ニーズに対して、デマンド型バスのダイヤ見直し等の実施計画は。

答　市民ニーズを踏まえて調査研究を進めていく。

生活道路の安全確保と維持管理

問　枯れ木や雑草等で道幅が減少している箇所の状況把握と、私有地の支障木等への対応や事故未然防止策は。

答　道路パトロールや通報により把握に努め、優先順位をつけ計画的に修繕・伐採を行う。私有地は所有者への指導を徹底し、一般交通に支障がある場合は適切に対応する。

機能別消防団員制度の導入

問　団員減少への対策として、特定の役割を担う機能別消防団員制度の導入検討状況と、今後の地域防災力維持の展望は。

答　団員減少は深刻な課題である。市では、機能別消防団員制度を活用し、災害時に消防団へ協力できる災害協力団員を令和5年4月に発足した。今後も協力団員制度を推進していく。



赤磐市消防操法訓練大会



治徳義明議員

芝生のサッカー場整備を

個人質問の映像を録画放映でご覧になれます。

問 市民から、サッカー場建設の大きな声があるが。

答 要望があることは十分に承知しているが、財政状況や財源等の慎重な検討が必要である。

問 市民は、プロチームがホームタウンにするようなサッカースタジアムを望んでいるわけではなく、子供たちが思いっきりサッカーの練習や試合ができる環境整備。つまり、芝生のサッカー場を望んでいるのだと考える。また、財政状況は重要な視点であるが、建設規模さえ精査すれば、財源の問題はクリアされる。そして、サッカー場は単なるスポーツ施設ではなく、教育・健康増進・地域活性化・若者定住等にリンクする基盤インフラである。まさに、赤磐市が掲げるメイン施策のど真ん中にある優先順位の高い施策と考えるが。

答 スポーツ振興は、人づくりの基礎である。既存の施設の人工芝整備を早く実現する必要があると考える。

問 現在、サッカー場として使用している、例えば、桜が丘のグラウンド等を人工芝、ナイター設備等整備した場合のコストは。

答 初期費用は1億5千万円から2億円程度、ランニングコストは、年間200万円から300万円程度である。

こども誰でも通園制度

問 次年度から始まるが、現状・課題・今後の取り組みは。

答 就労要件は問わず、6カ月から3歳までのお子さんが1カ月、10時間以内で柔軟に保育園等を利用できる制度である。約170人が対象と考える。保育士の負担軽減策や必要な人が利用しやすい制度にすることが課題であるが、さまざまな支援を検討する。



桜が丘運動公園



大口浩志議員

予防医療の啓発を 現役世代にもっと手厚く

個人質問の映像を録画放映でご覧になれます。

問 健康診断を受けると、病気が前もって防げたという事例が多くある。若い現役世代の人に啓発活動をもっとやってもらいたいが。

答 病気に対する気付きが遅れないよう、しっかり啓発していく。

問 筋肉質な医療体制が必要では。

答 できる限り一般会計の負担を軽減し、継続的に医療提供できる体制を目指す。

問 医療経営において、専門家の招へい、委託等、効率的に見直す体制作りはできないか。

答 前向きに研究していく。

生活支援について

問 高齢者のゴミ出し支援を柔軟にできないか。

答 多方面から検討し、できるようにしたい。温かい赤磐市にしていく。

通学支援について

問 新年度からのパッケージはどのように。

答 中学校区を基準とし、全中学校区に広げる。

問 支援制度が始まった後、住民からの指摘があれば、柔軟に変更してほしいが。

答 保護者の声をしっかり聴きながら、柔軟に検討していく。

合併浄化槽の補助制度について

問 その土地に1回しか補助が使えない現状を改善できないか。

答 試行的にやってみることも必要かと思う。

美作・岡山道路について

問 朝の熊山IC付近の渋滞対策は。

答 直進と左折（美作岡山道路進入）の割合も含め県の方へしっかり対応を求めていく。



令和７年度　健康診断　ご案内



佐藤　武議員

企業誘致の必要性について

個人質問の映像を録画放映でご覧になれます。

問 地方都市の活力向上や地域活性化は企業誘致以外の何物でもない。また、そのように断言する有識者は多い。誘致の考え方を聞く。

答 企業誘致は地域経済の活性化や雇用の創出拡大、さらに税収増が見込まれ、市財政の安定化に寄与する。誘致を検討する適地調査の実施や民有地の情報収集を行い、企業誘致奨励金等のPRに努める。

問 新拠点地区への企業誘致について、土地所有権が民間開発業者に移ったため、市長は介入しない考えであると認識するが、本事業は市の総合計画や都市計画審議会等の許可、さらには県や国の事業認可が必要とされた経緯等を考えれば、民間企業に一切を委ねるのは無責任ではないのか。見解を聞く。

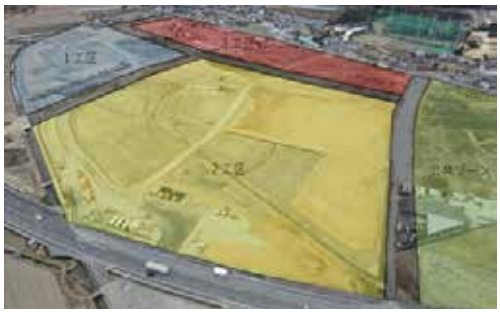
答 地権者である民間事業者が誘致・開発をすることが基本と考える。立地適正化計画として必要なものを誘導するために、民間企業とも協議・対応しており、何もしていないということではない。

バス交通対策について

問 広域路線バスや市民バスの収支率が低く、減便や廃止が懸念される。運行企業との協議はしているのか。また、バスを利用してもらうための取り組み策は。

答 公共交通の中心的役割を担う宇野自動車とは運行計画や周辺整備について定期的に協議を行い、連携を図り、路線の維持存続に努めている。

市民バス全体の利用率は着実に増えており、今後もバス停等の待合環境の整備を含め、乗り方教室等を実施し、利用者の拡充に努めていく。一方、デマンド型バスは利便性とコスト負担とのバランスが課題となっている。



造成工事が進んでいる新拠点地区



原田素代議員

ソーラー発電の設置と住民の利益権

個人質問の映像を録画放映でご覧になれます。

問 ソーラーパネルを設置することで、市民とのトラブルが多発している。現在の条例では適用範囲、地域住民の理解の確保、指導・助言・勧告の3点について見直しが必要では。

答 事業者へ、関係法令の遵守、災害の防止、地区住民との良好な関係などの保持を求めている。

問 業者は決められた申請書を提出すれば、職員は事業を認めるしかない。ここが一番大きな問題点では。

答 事業者と住民の相互の理解が不可欠で双方で建設的な対話で行えるよう、環境を整える役割は重要だと考える。

問 地域にとって、隣接する山の樹木の伐採、土砂流出、農業用水への濁流の流入、地すべりなど開発行為によって弊害が出ている。業者は住民に十分な理解を得る努力が不足しているケースが多く、地区の代表者から印鑑をもらったという口実で工事に入り、住民は泣き寝入り状態だ。現状について問題意識は。

答 国の方針に基づいて、市の役割として、どこまでできるのか検討したい。条例を改正しないことはない。

生理用品の設置

問 子供の貧困にとって見えにくく、子供も声を上げないという意味で、深刻な問題ではないか。

答 各学校では保健室に常備。一部ではトイレに配置している。

問 生理は毎月くるのに、子供たちは親や、友人や先生に話しやすいものではない。やはりトイレに置くことが一番手っ取り早い。災害時も同様で、公共施設への設置も関心を持つべきでは。

答 保健室やトイレ等、いろいろなところで対応を検討したい。



トイレに設置されている生理用ナプキン



佐々木雄司議員

赤磐市の独自施策について

個人質問の映像を録画放映でご覧になれます。

赤磐市の物価高騰対策はどう進めるのか

問 当議会に提出されている令和8年度一般会計当初予算のうち、重点とした項目について尋ねる。現在、物価高騰が大きな問題となり、自治体行政の取り組みについて多くの市民が関心を持って注目している。赤磐市では物価高騰対策についてどのように考えているのか。

答 令和8年度の当初予算は、市長に就任して初めての当初予算編成となった。就任以降、市内各地域を回り、区長、町内会長をはじめ、多くの市民からさまざまな意見を聞いた。こうした市民の人々から、日々の暮らしに直結する課題解決を望む声が多かったことから、日常生活を支える極めて重要な道路の整備や修繕を緊急性の高いところから実施、また子育て、教育環境の改善を図るとともに、災害時の避難所機能の強化として、小中学校体育館への空調設備整備を計画的に実施していくなど、生活の中で不安や不便を感じさせない事業を優先的に予算配分し、生活充実の赤磐市を目指した。

問 昨年の6月議会で、物価高騰対策と人口減少対策として、独自財源の確保と施策の打ち出しが必要ではないかとの指摘を行った。どのように改善したのか。

答 自主財源を確保し、展開した施策としては、高等学校等通学費補助事業の拡充がある。さらには日々の暮らしに直結する道路の維持補修事業の展開も予定している。子供医療費事業、それから学校給食支援事業（無償化）にも力を入れていく。



物価高騰対策



行本大輔議員

市政の1年と今後の課題・支援策について

個人質問の映像を録画放映でご覧になれます。

市政の1年を振り返り

問 市長の公約4つの進捗状況と自己評価は。

答 給食費無償化などを実施し各施策を推進中。自己評価は控える。

問 厳しい財政状況の中、来年度どのような財政運営を行うのか。

答 基金取り崩しで必要事業を優先し実施、今後は事業の見直しと歳入確保で行財政改革を進めたい。

問 市長の企業誘致のビジョンを尋ねる。

答 新拠点整備地域やIC周辺への誘致を進め、雇用拡大と地域への波及効果を図りたい。

ガバメントハンターについて

問 鳥獣被害対策を自治体職員として専門的に行うガバメントハンター制度導入の考えは。

答 有効な制度と認識している。関係部局も含め検討していきたい。

問 従来の狩猟者任せの対策見直しの考えは。

答 防護柵や追い払いなど、守りも含めた総合的な対策が必要と考えている。

ゼロカーボンシティに向けての取り組みは

問 削減目標の進捗は。

答 計画初年度で検証はこれから。本年度、太陽光導入調査を行い次年度以降の導入スケジュールを立てる予定。

放課後児童クラブへの物価高騰支援について

問 クラブや保護者へ国の交付金活用支援は。

答 1施設5万円の補助と利用者には、給食費無償化で負担軽減を図れたらと考えている。

問 子育て支援の一端であり、追加支援や利用料軽減はできないか。

答 必要性は認識している。クラブや保護者の意見を踏まえ期待に応えるよう進めたい。



ガバメントハンター導入・役割

議会全員協議会

主な協議・報告事項

1月29日
- 市制施行20周年記念式典について
- 物価高騰対策重点支援地方創生臨時交付金について

2月10日
- 令和8年3月第1回赤磐市議会定例会について
- 田原用水組合議会議員選挙について

3月10日
- 「後期高齢者医療保険料の急激な上昇抑制に向けた後期高齢者医療財政安定化基金の活用を求める意見書」の提出について
- 組織の変更について

3月16日
- 「後期高齢者医療保険料の急激な上昇抑制に向けた後期高齢者医療財政安定化基金の活用を求める意見書」の提出について

3月30日
- 常任委員会の報告について

総務常任委員会視察研修

総務常任委員会は1月13日、1月14日に3カ所の視察を行った。

1月13日
①綾部市役所（京都府綾部市）
移住・定住促進施策である「移住立国あやべ」取り組み状況等について説明を受けた。



②舞鶴市（京都府舞鶴市）
公共交通施策の公共ライドシェアである「meemo（ミーモ）」の取り組み状況等について説明を受けた。



1月14日
③京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー（京都府京都市）
防災（主に水害）についての研究・取り組み等について説明を受け、水害時の危険性について各種実験装置で体験した。



赤磐市議会だより
令和8年3月議会　第85号　発行／令和8年4月28日
編集／赤磐市議会広報広聴委員会（広報部会）
発行責任者／赤磐市議会議長　佐藤武文
所在地／〒709-0898 岡山県赤磐市下市344番地
TEL(086)955-2945 FAX(086)955-5348

議会改革検討委員会

主な協議・報告事項

1月29日
・赤磐市議会ハラスメント防止要綱（案）について

3月30日
・議会改革に関する提案について

議会ICT推進委員会

主な協議・報告事項

1月21日
・オンライン委員会の検討について

新拠点整備計画調査特別委員会（百条委員会）

主な協議・報告事項

1月8日
・調査事項について

2月3日
・調査の進め方について
・参考人の出席要求について
・令和8年度の調査経費について

2月17日
・新拠点整備計画の調査について

3月13日
・調査の進め方について
・参考人の出席要求について
・資料請求について

ようこそ赤磐市へ



1月20日に、兵庫県南あわじ市議会会派（誠道クラブ・絆・志・日本共産党･ゆずるはクラブ）が「スポーツで未来へ 希望芽生える健康まちづくり事業」の調査のため視察に来られました。

編集後記

赤磐市議会が新体制となって1年が経過しました。

市役所も新体制となり新たな取り組みが進んできています。

赤坂地域にあった3小学校が統合して、旧石相小学校に赤坂小学校として新たに開校しました。

さらに旧笹岡小学校に「みんなの学び舎」、桜が丘給食センター跡地に「赤磐市特別支援教育支援推進センター」を児童生徒のための施設として整備しました。

新拠点整備事業も、進んできていて、ナカシマヘルスフォース株式会社の本社・工場が岩田地区に移転することが決定して、令和9年12月に稼働開始と発表がありました。

新しい赤磐市が着実に進んできています。今後の赤磐市に期待していただけるよう、市議会もしっかり支援をしながら、市民の皆様の負託にお応えしていきます。

広報広聴委員（広報部会）
部会長　光成　良充
副部会長　杉野　千秋
委員　大口　浩志
委員　中田　浩二
委員　行本　大輔
委員　横山　裕太